

YA

2006
No.15



これは世につたえておきたい
かたっておきたい
わが胸の底から真実のおもい
人生幾山河のめぐりあい
あの日の風やひかり そして空のひとひら
哀歎のかがり火に生きた幾年月の路
「自分史図書館」はその証言館です。



若狭の海 奥本 守
天心の春日を背なに登美子歌碑立ちて
小さき影をもちたり
わが庭に花唇を開き笑っているヤブカンゾウの
白き花群
全校の児童に肩を叩かる老いの仲間に入りて
われも
漁火の四五六見えて黄昏るる若狭の海よ
平安にあれ
師の卒寿祝うところは何なるや学びし感謝
うれしさばかり
(平成13年3月21日発行)



私の稀観本ノート その15

椎窓 猛

去る2月12日、柳川の福厳寺で催された作家壇一雄供養祭に詣でた。檀さん逝かれて早や30年という。青春20歳そこらの年齢、文学青年仲間の真田宏と、東京石神井の壇邸に訪ねた日がなつかしく思いだされるのであった。真田宏は短篇集「凧物語」一冊と、遺児二人をのこして急逝した。彼の短篇集を私は今に大切に所蔵している。昭和30年の発行だから50年余の時が流れている。

『出発してしまったA'』これも永山一郎という山形県出身、へき地山間の学校につとめながら小説を書き、29歳でバイク転落死亡した作家の遺稿集である。今、こうした夭折の作家を語る人幾人か。

(自分史図書館長)

○歌集・若狭の海

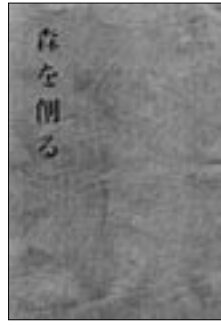
奥本 守

歌集のあとがきに、「70年を回顧して、〈自分史〉のような“年譜”を添えました。」とある。奥本さんは昭和6年、福井県遠敷郡瓜生村の生まれ。21歳のころより短歌に親しみ、窪田章一郎先生のすゝめで短歌結社「まひる野」会に入会。「五十年耕し来たる田にあれど跡継ぎなければ手放す外なし」農にいそしみ生きてきた歌人の足跡がしのばれる歌集。それにしても若狭の農歌人のうたが、筑後野町のわが「自分史図書館」の書棚に立てし運命もまたうたなり。

○おさの音

松岡 幾男

著者は、備後の国、広島県深安郡神辺町川北の生まれ。著書紹介に、昭和14年6月の生まれと記されているから現在、67歳とお見受けされる。検事をお勤め、他著に「英彦山がら」「私の土佐日記」があると簡潔に記されているのみだが、著名な作家井伏鱒二先生の出身地加茂町粟根の話も書かれている。福山城の博物館で開かれた「日本の色絵磁器・姫谷・伊万里・九谷展」の話など興味深く読まれる。著書が真の町おこしはその歴史と文化をひろく地元の人たちの啓蒙からはじまると結ばれていることは貴重な提言である。それにしても如何なる経路で、この本がわが自分史図書館へ寄せられたのか、調べてみたいものである。



○ふくおか無名山
福岡やぶこぎ探検隊

滝澤 昭正
滝澤さんは、無名山をこのまま放置すれば山は荒廃してしまうとの切実な思いから問題提起からの発想であった。ところが反響の多くが好意的で、里山志向に拍車をかけ相乗的な効果をみたようだと言われている。

八女地区でとりあげられているのは、森の塚山、カラ迫岳、高峰、大山、星塚山、雌岳雄岳、姫御前岳、戸の山、竹山、コスダ山、城山、文字岳、休鹿山、前門岳などのようだが、これらの無名山をさらに光ある名山への整備を期待したい。

○森を創る
鈴木 明雄

著者は、エステル化学の社長さん。エステル化学とは、防虫剤メーカーから除湿剤、家庭用手袋、芳香剤などのトップメーカーで有名。自分史題名を「森を創る」とされたのは、一本の木から林へ、そして森を創るという経営の理念から。明治神宮近くの原宿生まれで、荘厳な神宮の森を仰いで育ったと回顧され、森こそ日本人の心のふるさとと語られている。おりにふれたの随想集とも言える一冊だが、「北辰、その所に居て、衆生これを廻る」という孔子の「論語」の詞から読みとられた感慨など味読させられる。「休日画家」と称されているが、絵画作品もすばらしい。文化、芸術家、社長さんである。

○図書館人生五十年
大村 秀明

図書館に生きた木村さんの半世紀、貴重な回顧録である。あとがきに「県の課長職のポストが一つ空いたから移らないかと勧奨された事がある。その好意を辞退したら、呆れられた。それほど図書館での職場は評価されていない」と語られている。読みながら、戦後、経済「金、金と追いまわし、心を喪失した日本人」の現況が推察されてくる。

ホリエモン問題にも象徴される「心の貧困」は、行政面での人事評価にもつながる。図書館は「心の、英知の貯蔵庫」であるのだ。

○新・山中トンネル水路
河津 武俊

大分県日田市のお医者さんで、本紙でも紹介した『秋澄』などの作家河津先生のドキュメンタリーである。「水力発電」の原郷地ともいえる筑後川水系の源流域 山中トンネル水路の構造。河津先生は、十五の発電所の神秘と驚異、ロマンを探訪まとめあげられた力作。その着想の動機は、お医者さんらしく、「電気溝」と呼ばれる水路脇で縊死体検案に始まる。この即物的な「電気溝」という表現に触発され、深緑の水の流れへの思い入れから、山中にトンネルを掘り、川水を導水し、発電所を設置の地域は世界にもあまり例がないとのことだ。

編集掌記

短かい紙幅にまとめる事は俳句をつくるにひとしい「労」は感じながら楽しい。紹介するには、読まなければならぬ。読んでみると、いろいろ教えられる。それは楽しい。昨今の若い小説家からは読みとられない人生辛酸の味わいが滲んでいる。売ろうとか、売るといったことを度外視された本の底に「砂金」のきらめきのようなものを発見する。これは『自分史図書館』の妙味でもある。▽私事で恐縮だが、西日本新聞社からコラム集『権の實の“四季”』を発売してもらったが、八女市の図書館に行ったら、新刊本としてすぐに購入してもらい、入り口に帯文をとりだして紹介されていた。私は図書館の方にお礼を言い、郷土人の本に寄せられる好意を非常に嬉しく思った。

▽三寒四温。いくらか春風の漂いを感じる二月末『自分史図書館』にご寄贈の新しい本から紹介の文のペンをと

受贈図書紹介 ⑭

順次紹介していますが受贈日より多少遅れます。あしからずご了承下さい。

- | | | |
|------------|-------|------|
| 歌集 火の匂ひ | 角 忠太 | 久留米市 |
| 医者うた | 岩永 保人 | 福岡市 |
| 詩集 私の内なる島へ | 進 一男 | |
| 歌集 妻よ | 藤井 銀蔵 | 茅ヶ崎市 |
| 如月通信 | 谷口 和生 | 福岡市 |
| 歌集 弥生光 | 百田 和 | 大野城市 |
| 歌集 女王蜂 | 近藤 喜造 | 八女市 |
| しづかの海 | 市川紫都香 | 久留米市 |
| 青銅の鶴 | 柴崎 久資 | |
| きりんよ空を翔べ | 友枝美栄子 | 福岡市 |

蔵書目録ができました
¥160 送料込(郵便切手可)

自分史図書館

入館無料
開館／午前9時～午後5時30分
休館／日曜、土曜日、祝祭日、年末・年始、その他休館することがあります。予めご確認ください。
貸し出しはしていません。
インターネットでもご覧になれます。http://www.jibunshitosyokan

〒833-0032 筑後市野町423-8
TEL・FAX 0942-53-8122
西鉄バス野町停留所より徒歩5分